八東のひろば

～八東公民館報　第21号～

発行：松江市八東公民館運営協議会　〒690-1404 松江市八東町波入2060　Tel(0852)76-3663　Fax(0852)76-3669

図書貸出カウンター

新書＆特集コーナー

事務室から眺める

かこさとし作「からすのパンやさん」

小学生に人気のコーナー

人との出会い　本との出会い

八東公民館主事　濱﨑　深雪

八東公民館に「小さな図書館ふらっと」が誕生して2年半が過ぎました。

図書館といえば、静かでかしこまった場所というイメージが一般的ですが、公民館は全世代が広く集まれる施設です。「小さな図書館ふらっと」は誰もが気軽に訪れ、色々な本を楽しむ場所をテーマにしています。今年は感染症対策として家で過ごす時間が増え、利用する人が多くなりました。本を通して顔見知りになった方は読んだ感想を教えてくれたり、新しい本やお薦めを紹介したりと新たな出会いもありました。子ども達にはなぞなぞや間違い探しの本が人気で、お母さん方にはエッセイや料理、お父さん方には宇宙兄弟やミステリーが人気です。季節やテーマにそったコーナーを作り、また利用者の声を聞きながら選書をしています。

私は子どもの頃に出会い、今でも大好きな本があります。それは、かこさとしさんの「からすのパンやさん」です。からすの夫婦と4羽の子ども達が家族みんなでアイデアを出し、売れないパン屋から人気のパン屋になっていくお話です。優しい言葉とおいしそうなパン、からすの表情がとても印象に残っており、今でも時々開いています。それから40年、4羽の子ども達が成長したお話が続編として発行されました。きっと何世代にもわたって愛されてきた絵本だからだと思います。続編を読んだ後は自分の子どもが成長したような、母親の気持ちになりました。もちろん我が家の娘も大好きな絵本の一つです。私はおばあちゃんになってもこの1冊は手元においておくでしょう。

誰でも人生の中で「この1冊」と思える本に出会うと思います。すでに出会っている方もあるのではないでしょうか。家族と一緒に読みたい本、子どもに伝えたい本、いつまでも心に残る本。そんな1冊を見つけてもらえたら嬉しいです。いつか「この1冊」を持ち寄って、世代を超えた人との出会いが「小さな図書館ふらっと」で生まれたらいいなと思います。

特集

第９回

座談会

『八東生活はいかがですか？』

八東町で育ち一度は町外で生活された後にUターンされた方、縁あってこの地で生活されている方にお集まりいただき、日頃の八東での生活についてお話しいただきました。

「U・Iターン」の経緯

池田（香）：私は、松江市内で育ちましたが、結婚を機に主人の故郷に帰り、親子孫３世代で生活して12年になり、子どもは楽しく八東学園に通っています。皆さんはいかがですか。

池田（広）：私も市内竹矢町で育ちましたが、八東町出身の主人と結婚し、５年前に遅江地区に引っ越しました。八東に来るまでは島特有の人間関係があるのではと心配していましたが、ご近所の方も温かい方が多く、いつも助けてもらって感謝しています。

池田　広美さん
（遅江）

高橋：私は、亀尻地区の生まれで、社会人になるまでは八東でした。社会人になってからは仕事のこともあり玉湯町で生活していましたが、結婚を機に３年前に帰り実家の隣に住んでいます。近年、亀尻地区は子どもが多くなりましたね。

高橋　愛由美さん
（亀尻）

安部：高校卒業までの18年間と、Uターンで帰ってきて５年目になりますが、以前は山口県宇部市に住んでいました。今は、二子地区出身の主人と子ども、両親の６人で暮らしています。近所のみんなが顔見知りですので、子どもも安心してお散歩ができます。また、自然が多く、のびのびと子育てができますね。

神庭：子供の頃、阪神淡路大震災で被災し、兵庫県から母の実家に引っ越して25年になります。近所の方々も知り合いが多く、犯罪等も少なく安心して暮らしています。波入地区は中海沿岸の景観も良く、天気の良い日は大山や夕日もきれいに観ることができます。

石橋：私は江島地区で、主人の両親と子どもの３世代で生活しています。私たち家族は皆さん方と違い、八東町との関りは今までありませんでしたが、縁あってここに暮らして７年になります。八東公民館へは、定期的に子どもと一緒に本を借りに行っています。今回の座談会に呼んでいただいたのは、図書コーナーの顔なじみになったことがキッカケかな？と思っています。

石橋　由佳子さん
（江島）

「八東生活」の良し悪し

池田（香）：八東での生活期間は皆さんそれぞれ違いますが、生活面ではどのように感じておられますか。

神庭：町内に、ドラッグストアやコインランドリーなど、暮らしに便利な商業施設があると、子育て世代にも喜ばれると思います。

高橋：そうですね。小児科を含め隣町まで出かけなければならないですからね。

池田（広）：島内には買い物する所が少なく、お年寄りの方には、生活に必要なものを揃えるのに不便で車は手放せないでしょうね。

〈左から（敬称略）〉石橋由佳子、高橋愛由美、池田広美、神庭美佳、池田香織、安部伊予

また、日々の生活で気付いたことですが、以前住んでいた竹矢町では電車は毎日見てましたけど、八束はいろんな飛行機が飛んでおり、子ども達は喜んで見ています。

石橋：江島地区で生活していると、境港市が近いので買物には便利ですね。話は変わりますが、私は大塚山公園が好きですね。春は桜の花見や芝生で思いっきり遊べて、秋はドングリ拾いをして遊んでいます。

安部　伊予さん
（入江）

安部：大塚山公園は大根島の中央にあり景観の良い場所です。先日（11月1日）その公園で『大根島まんなかマーケット』を開催しました。この催しは、地元の皆さんによる「フード&ショップ店」や、ピラティスなど「体験&リラクゼーション」などです。コロナ禍ではありましたが、大勢の皆さんに来ていただきました。こうした手作りイベントを今後も続けますので、皆さんもぜひ参加ください。

手作りイベント「大根島まんなかマーケット」

神庭：私は、江島のコンビニで店長をしていますが、近年「ベタ踏み坂」のお陰で全国から観光客の方々が沢山来られるようになりましたので、町内の特産品や限定品を新しく開発し、人を呼びこんで活性化していけたら良いと思います。

神庭　美佳さん
（波入）

安部：住みやすさでは、大きな山や川が無く、水害の心配をしなくていいですね。地震にも強い地盤だと聞いていますが、道路や橋の寸断で孤立状態になってしまうのが心配です。また、古い家や空き家が多く、台風などでの漏電対策をしっかりしてほしいですね。

「小中一貫校・八束学園」について

池田（香）：県下初の、小中（9年間）一貫校「義務教育学校八束学園」が開校して3年目になりますが、いかがでしょうか。

高橋：初めは、行事があるごとに全ての学年が一緒にするということにビックリしましたが、成長の段階が見られて面白いですね。満足しています。

池田（広）：中学生が小学生に対し皆優しく、他の中学生と比べて素直で優しく、真っすぐな子ばかりいる気がします。私は子どもが多いですが、学校行事が小中一緒の日で、仕事をしながら子育てするのに何回も休暇をとらなくて助かります。

神庭：他の学校では、小学生と中学生の交流がなかなか持てないと思いますが、一貫校だと幅広い年齢での交流がもてて良いと思います。

石橋：体育祭や音楽祭などの行事が一緒なのがいいですね。小規模校は行事を行っても児童・生徒数が少なく寂しい面がありますからね。

安部：子どもはまだ保育園児ですが、保育園から学園の様子がよく見えるようで、「お兄さん達が楽しそうだ」と、よく話をしています。小学生達は中学生を身近に感じられて、良いお手本になっているのではないでしょうか。

池田　香織さん
（寺津）

池田（香）：私は、今年度から地域学校コーディネーターをしていますが、八束学園の特徴的な取り組みとして、9年間の系統性・連続性を重視した教育が行われていますね。内容は、前期ブロック（1～4年生）、中期ブロック（5～7年生）、後期ブロック（8・9年生）の4・3・2制で、特に中期ブロックの5・6年生は、一部教科担任制となっており、中学校籍教員による授業を受けています。また、6年生の2学期から部活動にも参加できます。島根県下でも初の試みの義務教育学校が児童・生徒の学力向上に繋げればいいですね。皆さん本日はお忙しい中、ありがとうございました。

中村元博士が残した『慈しみあふれる言葉』を紹介します③

松江市出身でインド哲学・仏教学の世界的権威、中村元博士が残した慈しみあふれる言葉を、八束町中央の「八束複合施設」正面玄関東横にある掲示板で毎月紹介します。掲示内容は「中村博士自身が述べた言葉」の中から、中村元記念館の笠原愛古研究員が選び、公民館で書道を学ぶ「中央書道サークル（橘淳子代表）」のメンバーが中心となって毛筆でしたためます。

〈左から〉清水谷善圭記念館理事長（安来・清水寺貫主）、能海広明副市長、池田均公民館長

令和二年八月掲示

中村元のことば

怨親平等

【出典・解説】

中村元が「日本の伝統的精神」と評したことば。

『戦争についての日本の伝統的精神は、戦後には敵味方すべての冥福を祈るということであった。これを「怨親平等」という。―国のために身命をなげうった人々に敬意を表し、冥福を祈るのは当然であるが、敵に廻った人々のことを考えるという日本の伝統的精神が失われてしまった。こういう伝統をわれわれは反省すべきではなかろうか。』

（中村元「靖国問題と宗教」『中村元生誕１００年新装新版』より）

令和二年九月掲示

中村元のことば

男女平等

【出典・解説】

中村元が企業の経営者に向けたことば。

『厳密な意味での男女平等は、これ宗教の世界で言われることでありまして、また宗教の世界はそうでなければならない。しかし、実際の社会では、短絡的に男女平等で押し通すことはできないのではないでしょうか。平等だからといって、女性に危険な仕事をやらせていいでしょうか。やはり人間世界の多層構造を考えなければならないかと思うのです。』

（中村元『仏典のことば　現代に呼びかける知慧』より。）

令和二年十月掲示

中村元のことば

聖徳太子

【出典・解説】

『指導的立場に立つ人は、人格的にも立派な人でなければいけない、ということを聖徳太子は説いておられます。「賢明な人格者が官にあるときは、ほめる声が起こり、よくしまな者が官にあるときは、災禍や乱れがしばしば起こるものである。」―指導者が人格者でないと、その社会は必ず腐敗堕落し、やがて禍が起こるということは、過去の人類の歴史の示すところです。そういう立派な人間は現実にいないのではないか、と言われるかもしれませんが、人が自ら反省し道理を考えることによって、適任者となりうる、と聖徳太子は言われるのです。』

（中村元『仏典のことば　現代に呼びかける知慧』より。）

令和二年十一月掲示

中村元のことば

恩と感謝

【出典・解説】

『東洋では「恩」ということを申します。人から恩義を受けている、助けを受けている、それを自覚せよと言いますね。西洋でも同じように、「感謝を捧げる」とか幾つかの言い方をします。個人というものは、個人だけで成立しているのではなく、あらゆる人と絡み合い、連絡をとって共存している。だから他人のことを考えなくてはいけないということになるのだと思います。』

（中村元『人生を考える』（青土社、二〇〇〇）より。）

あとがき

大根島③「楽園」

当時、奈良県にお住まいのご夫婦が、山陰旅行の途中大根島に立ち寄り中海南沿岸を眺めたところ、その風景から以前訪れたヨーロッパ地中海沿岸がイメージされ、定年後の住まいはここだと決め、入江港近くに移住して早や13年。

中海に飛来するコハクチョウに冬の到来を感じ、丘の上を染める青空の濃さに夏を感じ、また「夕日が中海に沈む時刻が何ともいい」としみじみ。四季折々の風情を五感で感じ、丘陵地と中海が醸し出す異国情緒が心象風景と重なる。

ご夫婦は、「大根島の良さは生活してみるとよく分かる」と、地域付き合いも好きな距離感が保て、Iターンしても違和感はないとのこと。「ついのすみかに大根島を選んで本当に良かった」と話し、「ここは楽園だよ」と心境を語ってくれました。（池）